

正しく動き、美しくつながり、強く創り出す「未来を生き抜く力」を育成する学校



「たい」のあられる時津小



↑こちらからも↑

令和6年 7月 5日(金) 発行人：校長 森内 秀学



プロの指導で、水に親しみ命を守る

3年ほど続いた新型コロナによる活動制限のせいで十分学習できなかった内容の一つに、水泳があります。この影響は全国的に大きく、高学年になっても全く泳げない子どもがたくさんいます。無理ありません。

そこで、7月4日(木)、「体育学習サポーター」という県の人材派遣事業を活用し、水泳指導のプロ「塚原 明美」先生に、5、6年生を対象とした水泳指導を行っていただきました(左)。

何となく泳げていた子どもたちが、正しく教わろうと何度も質問している姿から、「その道のプロ」と呼ばれる人がもつ圧倒的な技術力と、腹落ちさせる言葉の力に感服しました。

泳げるかどうかは、場面によっては命にかかわります。この日の学習をきっかけに、自分の命を守れる力が付き、水を楽しめる子どもが増えることを期待しています。

自分から力を伸ばす

「どうすれば自分から勉強する子どもになるのでしょうか？」そんなお悩みありませんか？

3階の踊り場には、印刷した算数の重点課題を封筒に入れ、自由に取れるようにした4年生の掲示板があります。4年生の学年目標は「自分から」。

配らずあえて「自分から」取って課題に挑戦させるよう工夫することで、自分から勉強する子どもを育てようとしています。子どもを信じて待つ4年担任の姿勢に頭が下がります。



☆☆☆☆ 特別支援教育だより ☆☆☆☆



4月から開設された「心の教室」。ゆらゆら揺れるのれんをくぐると、「心の教室相談員」の山口由美子先生が、子どもたちをいつも笑顔で迎え入れてくれます。

この教室は「心の基地」です。疲れたり、弱ったり、沈んだりした心を元気づけられたら…。

そんな思いで山口先生が子どもたちに寄り添い、話を聞いたり一緒に制作

活動をしたりして、心を落ち着かせる手伝いをしてくれています。



大人もそうですが、子どもは、些細なことでも心に引っ掛かりがあると、全てが嫌になったりやる気がなくなったりしてしまうものです。そんなとき、「心の教室」に行くと、気持ちをすっきりさせることができるかもしれません。

月・火・木・金の午前中に、「心の教室」は開いています。

【中島亜沙美(通級指導教室担当・特別支援教育コーディネーター)】

